

1月9日（火）その117 走り出したら自分で輝け！－青学V4－

青山学院大学の4連覇が達成できるかどうか、1月2日、3日の箱根駅伝に興味があった。11月の末にNHK「プロフェッショナル・仕事の流儀」で、青山学院大学の駅伝部の監督の原晋（はら・すすむ）、美穂さん夫妻の奮戦ぶりを見ていたからだ。しかし箱根3連覇中の「青学」は、10月の出雲駅伝2位、11月の全日本駅伝3位と苦しんでいた。

テレビ中継はなかったがネットで生中継があり、2日間とも見ることができた。青学は、往路でこそ東洋大に36秒差で2位だったが、復路ではスタートの6区で逆に30秒以上の差をつけてトップに立つと、その後はぶっちぎりで優勝し4連覇を果たした。（10時間57分39秒、2位との差≒5分）

監督の原晋さんは、駅伝の名門広島県立世羅高校から中京大学に進み、その後中国電力へ就職して実業団でも陸上競技を続けていた。しかし故障で27歳の時引退し、サラリーマン生活に専念する。その後10年以上仕事を続けたが、平成16年（2004年）に青学の監督就任のオファーがあり、仕事を辞めて妻の美穂さんと共に上京した。

当時の青学は、ほとんど駅伝の実績がなかった。しかし彼は監督就任当時に「3年で箱根駅伝に出場、5年でシード権（10位以内）、10年で優勝争い」と公言した。「就任3年で箱根出場」の目標は達成できなかったが、5年目に箱根駅伝出場を果たし、7年目には「8位」となりシード権を獲得した。そしてついに11年目（2015年）で総合優勝に輝き、今年2018年には、みごと箱根駅伝4連覇を達成した。

原晋・美穂夫妻は二人とも青学の職員の位置づけで、駅伝部の学生寮に38人の学生と寝食を共にしている。美穂さんは寮母として学生の食事を作っている。毎日の食事時間を通して全学生と声を交わすように努力しているという。そして得られた健康管理チェックの情報を、原監督に提供している。

原晋監督は、「走り出したら自分で輝け」と選手に話していた。チームに力をつけさせるために走ることや体幹トレもやるが、「自ら考えること」を重視しているという。自分の能力を最大限発揮するためには、自分自身で「気づき、考え、行動する」ことが、重要であるという。そのため毎月の「チーム目標、個人目標、練習計画」などを、グループで話し合わせて発表させているという。学生達は将来サラリーマンになるわけだから、自分の考えをまとめ、相手に伝える「プレゼン力」も鍛えているのだ。そして「笑顔でゴールしろ！」といつも言っているそうだ。やってきたこと、頑張ってきたことを素直に見つめて、自分に勝ったことや練習ができてきたことで、自信を持って走る。そして笑顔でゴールしろと言っているらしい。

監督自身も新たな指導方法を確立するため、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科で学び直しているそうだ。本も数多く執筆しており、メディアへの露出も多いようである。また休日には講演会で全国を飛び回る超多忙な監督である。原監督は「ライバルは、東海大でも神奈川大でもない。野球やサッカーなどである。」として、陸上競技（特に駅伝）の発展を強く願っている。

「走り出したら自分で輝け！」、「笑顔でゴールしろ！」。主体的にきつい練習をして自分に打ち勝ってきたのだから、自信を持って走る。それができて優勝できないなら仕方ない。これが青学の強さの秘密なのだ。

1月10日（水）その118 こんなに時間をかけて準備したのだから……

所長講話は、その日の日程を見ながら臨機応変に時間設定をしているが、普段は朝の9時にやっている。また週3回やると決めているので、基本的に月と火で2回。残りの1回は研究所の行事等を見ながら、水木金のいずれかの日に実施している。我ながら「何を話そうか」と悩むこともなく、話したいことが次々に湧き出てきて、4月第1週から毎週3話ずつきちんとやることができた。今日で118回。自分で自分を褒めてあげたい！（笑）

皆さんがこの文章を読んでいる時間帯（10日・午前9時）には、私は渡嘉敷行き的高速船の中です。実は今日から明日まで渡嘉敷村に出張です。今週は公休日がらみで4日しか勤務日がなく、そのうち2日は出張なので、講話を3回実施するために今日は紙面のみでの講話です。皆さんだけでなく、ネットで見ってくれる人も週100人ほどいるので、頑張るからね。（笑）

今年度と来年度の2年間で、島尻教育研究所の「離島4村教育委員会訪問事業」の一環として「所長の激励授業参観と職員への講話」も組み込んでもらった。10月末に栗国村を訪問し、そして今日渡嘉敷村を訪問する。もちろん事前に打診して村や各学校が「希望する」場合に限り、日程を調整して実施している。宿泊をしてゆっくりと職員との懇親会も実施する予定だ。来年度は、渡名喜村と座間味村、久高小中を訪問したい。私の訪問で離島に勤務する先生方のやる気もう少し高まり、「目の前の子ども達のために、もう少し頑張ろう！」という気持ちになってくれるのがねらいです。

この1か月近く毎日渡嘉敷村のことを考え、渡嘉敷村史や学校の記念誌等を読み込んで90分の講話を組み立ててきた。「厳しい自然条件の中、島で生きながらえてきた先人達の苦労を胸に、世界に飛び出していく人間を育てよう」という趣旨の話をしていきます。だから①その島の歴史や自然、文化を掘り下げて考える。②ふるさと教育の重要性を語る。③広い世界に飛び出す子ども達を育成するための教師の姿勢について話しています。

「私、失敗しないので」（ドクターX・外科医大門未知子）の言葉のように、これまで数多くの講話をやってきましたが、私は講話を失敗したことはありません。なぜなら聞いて下さる方々の数や場所に限らず、どの講話もかなり時間をかけ練り上げていくからです。必ず村史や学校の記念誌をじっくりと読み、村や学校のHPを丹念に見て、その中から生まれてきたエピソードで講話を構成していく。だから「その村独自の話」が講話の7割を占める。

これまでに栗国村（30人）、渡名喜村（60人）、伊平屋村（150人）、竹富町（150人）、南風原町（300人）、南城市（300人）で講話をしたことがあるが、どこの市町村の場合も手を抜かず、時間をかけて準備をした。

今回も「いつ頃から渡嘉敷島に人が住み始めたのか？」、「校歌に読み込まれた先人の思い」、「島の歴史を変えた琉球国の進貢船とカツオ漁」等について、丹念に調べてきました。スライドの上書き保存だけで100回以上やっています。だからシートを見れば話すべきことがスラスラ出てくる。

昨日「駅伝の青学」の原晋監督の話をしてきましたが、同じようなことを私も感じていました。「こんなに時間をかけて準備してきたんだから、失敗するはずがない！」と、自分に自己暗示をかけて講話に望んでいます。

1月12日（金）その120 なぜ安くすることを「勉強する」と言うのか？

校長の時に何度もくり返し生徒達に語りかけたことがいくつもありました。3点だけ述べると、①「学校は何をするところですか？」（学校は勉強をするところです。）②「勉強とは何ですか？」（勉強とは、頭をきたえ心をみがき体をきたえることです。知・徳・体の力をバランスよく身に付けることです。）③「何のために勉強するのですか？」（自分のためです。自分のよさを伸ばして、素晴らしい人生にするためです。そして、他の人も幸せになれるようよりよい社会をつくるためです。）

何のために学ぶのか？子ども達に学ぶ意義を理解させて（教育基本法の教育の目的）、授業をすることが新学習指導要領では強調されています。

皆さん、正直に答えて下さい。「子どもの頃の勉強は楽しかったですか？それとも苦しかったですか？」……嫌々ながら勉強したでしょう？（笑）

「勉強」という漢字について、不思議に思ったことはないですか？なんで勉強は、「勉（つと）めることを強（し）いる」と書くのですか？また商売などで安くすることを、「お勉強しますよ」と言ったりしますね。なぜ？

中国語が堪能な方から聞いたことがあります。中国では、「勉強」と書いてミーエンチャンと読み、「無理強いをする」という意味だそうです。じゃあ日本語の勉強（スタディー）は何というのですか？と聞いたら、「学習」（シェイシー）と言うのだと教えてくれました。

今の日本での「勉強する」の意味は、①学問や技芸などを学ぶこと。②物事に精を出すこと。努力すること。③経験を積むこと。④商人が商品を値引きして安く売ることなどです。そこで、語源や変化の経緯などをネットで検索してみました。わかったことを私の言葉でまとめてお話しします。

古代の中国では、「勉強」と書いて、「困難なことに対しても精を出して勉めること」、「無理強いをすること」という意味だったそうです。（今でも同じですね。）日本にも同じ意味で伝わってきました。しかし江戸時代になると、商人が商品を値引きして安く売ることを「勉強する」と言うようになりました。商人にとって商品を安く売ることとは、「努力して困難に立ち向かい精を出して勉めること」であるため、「勉強する」と表現するようになったようです。なんと「勉強」という言葉は、学校よりも先に商人の方が「安くする」という意味で使い始めたのです。

今のように「学習」の意味で使われるようになったのは、明治以降のようです。「文明開化」は、欧米に追いつけ追い越せの時代ですから、無理をしてでも知識を身につけ学問をすることが美德とされ、「学習＝勉強」となったのだそうです。

言葉は使っている人間とともに変化してきました。「言葉は生きもの」なのです。最近でも若者を中心に「やばい！」の意味が変化してきています。いくら年寄りや言語学者が「近頃の若いもんは・・・」と眉をひそめても、「赤信号、みんなで渡れば恐くない！」で、定着すれば広辞苑にも載せざるを得なくなるのです。そういう言葉は意外と多いのですよ。「にやける」、「元旦」、「情けは人のためならず」、「さわり」、「一姫二太郎」、「檄（げき）を飛ばす」など。他にもいっぱいあります。後1行では解説できないので、自分で調べてみましょう。今日の話は、勉強になりましたね。（笑）